



## せいしどう 勢至堂

安永8年(1779年)3月ごろに建設されたことされ、万延元年(1860年)まで井上院が隣接していたとされる。



せいじょういん

## 井上院とは？

井上院とは延宝2年(1674年)津山藩家老(現在の岡山県津山市)、井上四郎兵衛重政は88歳でなくなった母のために、現在の勢至堂のあたりに葬り墓上に観音石像を建て墓周辺に井上院を建てた。明治中期には廃院となり大正時代になると名実ともに存在しなくなった。





## 法然上人ご両親 御廟

御廟中央には、勢至菩薩像とご両親のお墓がある

### うぶゆ いど 産湯の井戸

昔、この地に一人の僧が訪れました。この僧は修行僧とはいえ貴賓のある僧でした。その僧は小高い山すそに行って、登り口に立って経文をとなえた後、金剛杖で地面を一突きし「これから500年後に、この地に立派な聖が生まれる。もしそうなら、この下から清水が湧いてくるだろう。」そして、杖を地面から抜くと、そこからこんこんと水が湧き出た。村人たちは、この謎のようなことに驚きながらも、人々の間に語り継がれていきました。



宝篋印塔

(県指定重要文化財)

南北朝時代、花崗岩、  
高さ112cm

# 森大膳重政と 大野木姫の墓

森重政は、元和4年（1618年）に26歳で死去した。大野木殿は、柴田勝家の娘で、森忠政（津山藩初代藩主）が7歳の時に養母となった。

織田家の家臣の妻となったが、夫が戦死したので、尾張で詫び住まいをしていたところ、津山藩主となった忠政が津山に呼び寄せたという。

大野木殿は、寛永4年（1627年）に死去した。

観音堂は、森重政と大野木殿の供養のために建立されたもので、二人の位牌が祀られている。



五輪石塔  
(県指定重要文化財)  
室町時代に作られたもの

- ・五輪塔や誕生寺の歴代住職のお墓、大きい五輪塔は森大膳重政と木野姫のお墓。
- ・勢至堂の入口の門は薬医門
- ・昔、勢至堂にあった大仏は、災害防止のため御影堂近くに移動した。